

平成29年度行政事業レビューシート( 厚生労働省 )

事業名	移植対策(造血幹細胞)事業			担当部局庁	健康局	作成責任者	
事業開始年度	平成15年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	難病対策課移植医療対策推進室	室長 井内 努	
会計区分	一般会計						
根拠法令(具体的な条項も記載)	移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律			関係する計画、通知等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「骨髄バンク事業の推進について」(平成3年12月18日 健医発第1462号 厚生省保健医療局長通知)</li> <li>・骨髄移植対策事業の実施について</li> <li>・造血幹細胞提供推進事業の実施について</li> </ul>		
主要政策・施策	-			主要経費	社会保障		
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	白血病等の治療に有効な造血幹細胞移植を推進するため。						
事業概要(5行程度以内。別添可)	別紙のとおり						
実施方法	補助						
予算額・執行額(単位:百万円)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求	
	予算の状況	当初予算	1,861	1,805	2,025	2,021	2,041
		補正予算	384	-	-	-	
		前年度から繰越し	-	384	-	-	-
		翌年度へ繰越し	▲384	-	-	-	
		予備費等	-	-	-	-	
		計	1,861	2,189	2,025	2,021	2,041
	執行額	1,861	2,189	2,025			
	執行率(%)	100%	100%	100%			
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	83%	121%	100%			
平成29・30年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由			
	移植対策事業費補助金	2,021	2,041	コーディネート期間短縮化事業費の増額要求、採取等協力医療施設担当者研修費の増額要求等			
	計	2,021	2,041				

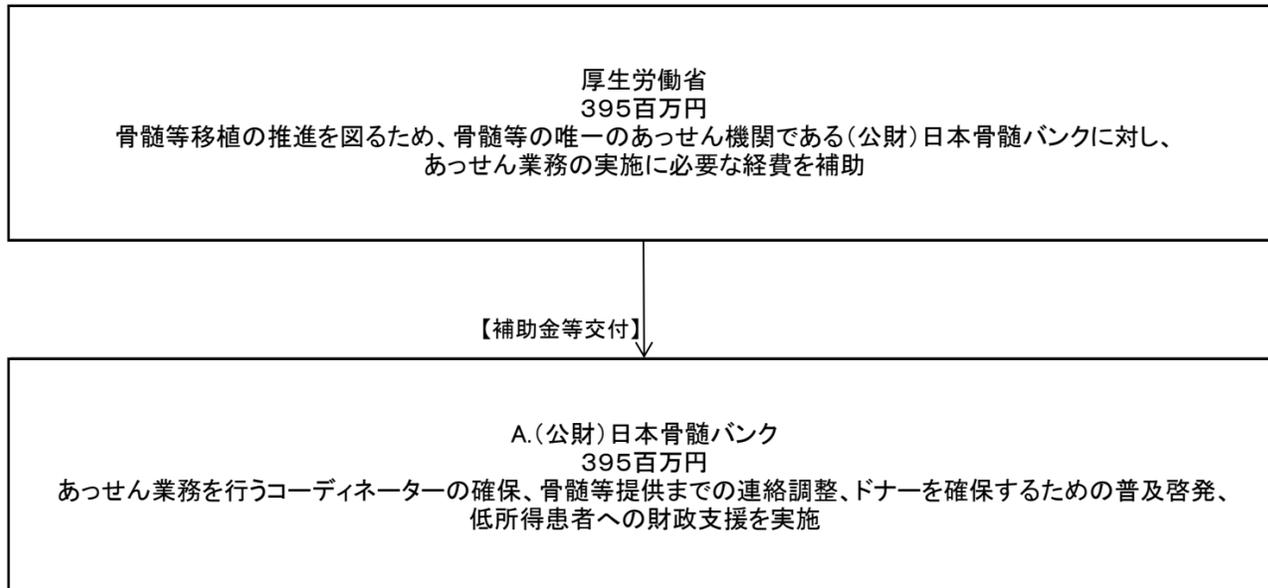
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	成果実績	単位	26年度	27年度	28年度	中間目標		目標最終年度	
								-	年度	29	年度
骨髄バンクドナー登録者の増加		骨髄バンクドナー登録者数	成果実績	人	450,597	458,352	470,270	-	-	-	-
			目標値	人	444,413	450,597	458,352	-	-	470,270	
			達成度	%	101.4	101.7	102.6	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名(出典)	骨髄バンク統計資料										
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	成果実績	単位	26年度	27年度	28年度	中間目標		目標最終年度	
								-	年度	29	年度
非血縁者間骨髄等移植実施数の増加		非血縁者間骨髄等移植実施数	成果実績	件	1,331	1,234	1,250	-	-	-	-
			目標値	件	1,343	1,331	1,234	-	-	1,250	
			達成度	%	99.1	92.7	101.3	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名(出典)	骨髄バンク統計資料										
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	成果実績	単位	26年度	27年度	28年度	中間目標		目標最終年度	
								-	年度	29	年度
非血縁者間臍帯血移植実施数の増加		非血縁者間臍帯血移植実施数	成果実績	件	1,165	1,311	1,347	-	-	-	-
			目標値	件	1,134	1,165	1,311	-	-	1,347	
			達成度	%	102.7	112.5	102.7	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名(出典)	臍帯血バンク統計資料										
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標	活動実績	当初見込み	単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込		
ドナー登録会開催数		活動実績	回	回	3,619	4,249	4,327	-	-		
		当初見込み	回	回	4,446	3,619	4,249	4,327	-	-	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標	活動実績	当初見込み	単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込		
骨髄バンクドナー新規登録者数		活動実績	人	人	26,380	28,690	32,259	-	-		
		当初見込み	人	人	32,753	26,380	28,690	32,259	-	-	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標	活動実績	当初見込み	単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込		
臍帯血新規公開件数		活動実績	件	件	2,182	2,233	2,597	-	-		
		当初見込み	件	件	2,587	2,182	2,233	2,597	-	-	
単位当たり コスト	算出根拠	X:補助金(骨髄バンクドナー登録関係経費) / Y:骨髄バンクドナー新規登録者	単位当たりコスト	単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込			
								円	26,179	23,915	19,555
			計算式	円/人	690,592,000 / 26,380	686,126,000 / 28,690	630,814,000 / 32,259	605,273,000 / 32,259			
単位当たり コスト	算出根拠	X:補助金(非血縁者間骨髄等移植あっせん関係経費) / Y:骨髄等移植件数	単位当たりコスト	単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込			
								円	336,660	355,634	309,801
			計算式	円/件	448,094,000 / 1,331	438,852,000 / 1,234	387,251,000 / 1,250	447,999,000 / 1,250			

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	I-5 感染症など健康を脅かす疾病を予防・防止するとともに、感染者等に必要な医療等を確保すること							
	施策	I-5-3 適正な移植医療を推進すること							
	測定指標	定量的指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標年度 毎 年度
		骨髄バンクドナー登録者数 (公財)日本骨髄バンク調べ	実績値	人	450,597	458,352	470,270	-	-
			目標値	人	444,413	450,597	458,352	-	470,270
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	<p>①骨髄等のあっせんに関する事業 白血病等の治療に有効な骨髄移植や末梢血幹細胞移植を公平に実施するため、第三者機関である骨髄・末梢血幹細胞提供あっせん事業者があっせん機関として骨髄移植等に係る連絡調整を行う(国際的なあっせんを含む)。また、骨髄等提供登録者(ドナー)の登録内容の定期的更新等を行う。さらに、主治医の負担を軽減し患者がより移植を受けやすい環境を整備するため、日本赤十字社等の機関ごとに別々に管理されている各システムを一元化する造血幹細胞移植支援システムを構築する。</p> <p>②骨髄移植等に係る普及啓発に関する事業 一人でも多くの患者に骨髄移植等の機会を提供できるよう、骨髄等提供希望者を確保するための普及啓発事業、骨髄等提供希望者への説明を行うボランティアに対する研修事業、ドナー登録会の開催及び低所得者の患者負担金免除事業を行う。</p>								
	改革項目	分野:	-	-					
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
		-	成果実績	-	-	-	-	-	-
目標値			-	-	-	-	-	-	
達成度			%	-	-	-	-	-	
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	-	成果実績	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	-	
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									
<b>事業所管部局による点検・改善</b>									
国費投入の必要性	項目	評価	評価に関する説明						
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	白血病等の血液疾患の患者にとって、造血幹細胞移植は非常に有効な治療法であり、広く国民のニーズがあり、国費を投入するべき事業である。						
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	ドナーと患者を結びつけるあっせん事業者及び臍帯血供給事業者が必要であり、当該事業者は、公平・中立であることに加え、営利を目的とする団体であってはならないため、こういった特性をもつ事業者に補助する当該事業は国が実施するべきである。						
事業の効率性	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	骨髄・末梢血幹細胞移植ドナー登録者数は近年増加傾向にあり、平成28年度末で47万人を超えており、優先度が高い事業である。						
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	骨髄移植等に必要なHLA(白血球の型)データを確実に管理するため、ドナーのHLA情報の管理システムの保守業務等については、当該システム構築業者との間で契約を締結している。						
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無							
	競争性のない随意契約となったものはないか。	有							
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	造血幹細胞提供についてはドナーの善意が必要であり、移植については安全・公平に移植が行われるようあっせん体制の確保が必要であることから、ドナー情報の確実な管理、普及啓発等を行っている。これらにより、公平なあっせんが図られるものであり、負担関係は妥当と考える。						
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	ドナー登録について、献血併行型での登録会を多く開催するなど、効率的な登録が行えるよう努力している。						
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	事業の効率的かつ効果的な実施を図るために必要なシステムの保守等を再委託して支出しているものであり、合理的である。						
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	造血幹細胞移植については、ドナーのHLA情報の登録・管理、骨髄・末梢血幹細胞移植のあっせん業務、臍帯血の採取、調整保存に係る経費など必要な事業を補助対象としている。						
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-						
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-						
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	適宜実績報告を見直し、効率化できる部分は実施方法等を見直している。							

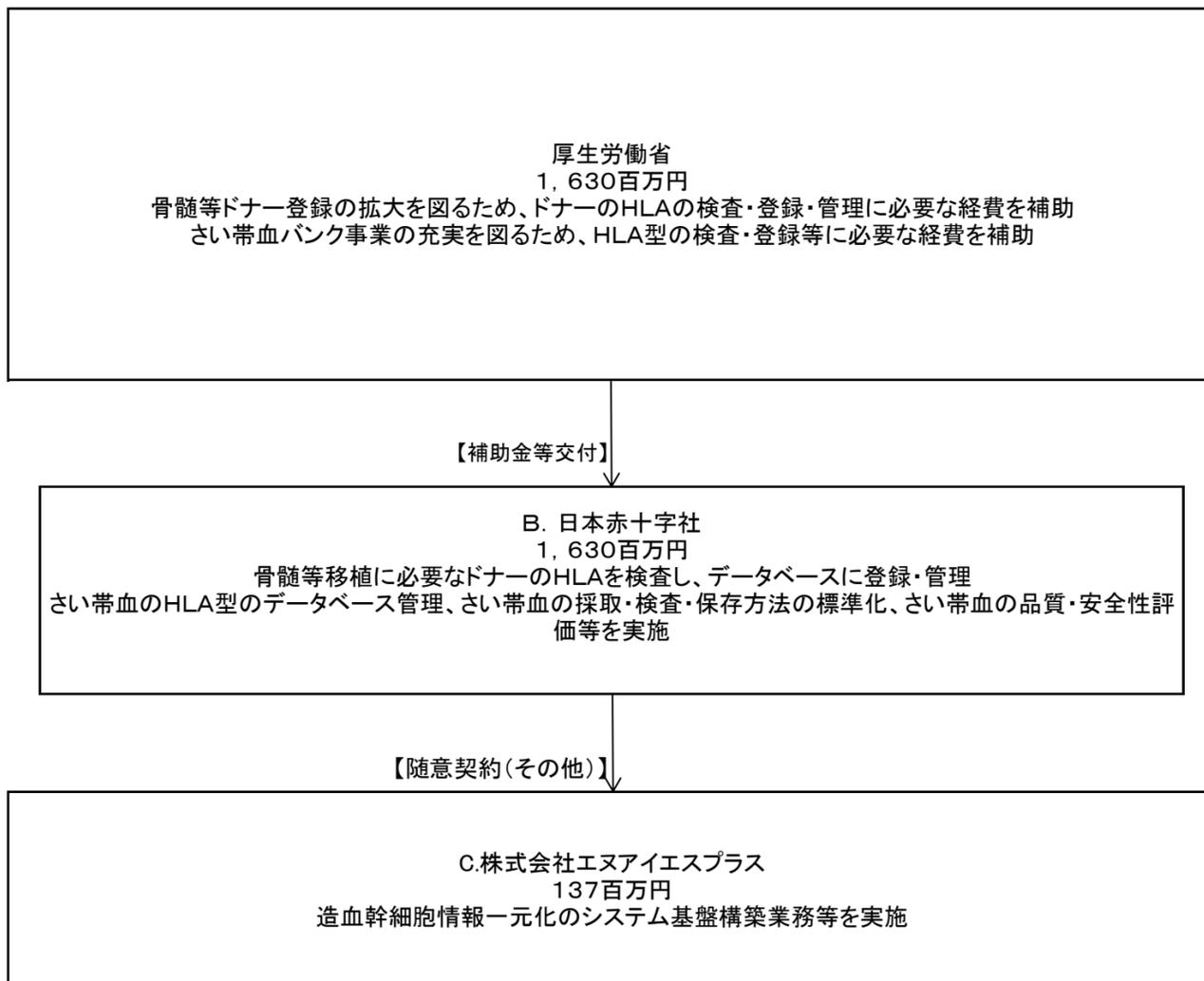
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	骨髄・末梢血幹細胞移植ドナー登録者数は近年増加傾向にあり、平成28年度末で47万人を超えており、移植数も着実に増加している。			
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	骨髄・末梢血幹細胞移植ドナー登録者数は近年増加傾向にあり、平成28年度末で47万人を超えており、移植数も着実に増加している。			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	骨髄ドナー登録者及び公開臍帯血の情報は、補助対象としている造血幹細胞適合サービスに登録・管理され、この情報を元に非血縁者間の造血幹細胞移植が行われている。			
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		○	造血幹細胞移植医療体制整備事業は白血病等に対する有効な治療法である造血幹細胞移植を受けようとする患者が、どの病院においても疾病の種類や治療ステージに応じて適切な移植術を選択し実施できるようにするため、全ての移植術を実施している拠点的な病院を指定し、造血幹細胞移植の医師等を育成する等、地域における造血幹細胞移植医療の体制整備を図る事業であり、当事業とは、適切な役割分担を行っている。		
	所管府省名	事業番号	事業名			
	厚生労働省	0172	造血幹細胞移植医療体制整備事業			
点検・改善結果	点検結果	造血幹細胞移植における事業については、職員及び多数のボランティアなど、全国に蓄積されたノウハウを活用して、公平かつ迅速な事業の推進及び多くのドナー登録者の確保、臍帯血の調整・保存等、効果的かつ効率的に事業を実施している。 また、移植の公平性の確保という観点から非血縁者間の骨髄移植・末梢血幹細胞移植のあっせん業務については(公財)日本骨髄バンクが、臍帯血移植に必要な臍帯血の調製保存管理及び供給業務については全国6の公的バンクがそれぞれ事業を行っている。 平成28年度は、ドナー登録会の実施や普及啓発活動により、着実に骨髄バンクドナー登録者数が増加している。今後は、より効率的、効果的に造血幹細胞移植対策事業の推進を図る必要がある。				
	改善の方向性	より、公平かつ迅速に骨髄等のあっせん及び臍帯血の供給を進めるために、 ・ドナーの継続的な確保 ・コーディネート期間の短縮 ・造血幹細胞提供に関する情報の一元化等を行っていく。				
<b>外部有識者の所見</b>						
点検対象外						
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>						
現状通り	造血幹細胞移植を推進するために必要な経費であり、引き続き、必要な予算額を確保し、適正な執行に努めること。					
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>						
現状通り	-					
<b>備考</b>						
-						
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>						
平成22年度	173	平成23年度	150	平成24年度	122	
平成25年度	147	平成26年度	158	平成27年度	167	
平成28年度	167					

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

①骨髄移植対策事業



②造血幹細胞提供推進事業



資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
しているかについて補足する)  
(単位:百万円)

A.(公財)日本骨髄バンク			B.日本赤十字社		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
補助金	骨髄移植等のあっせん、普及啓発等に関する事業	395	補助金	骨髄等ドナー登録の支援、さい帯血バンク事業の充実等に関する事業	1,630
計		395	計		1,630
C.株式会社エヌアイエスプラス			D.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
雑役務費	造血幹細胞情報一元化のシステム基盤構築業務等	137			
計		137	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)



## 【事業概要】

## ①骨髄等移植対策事業

<b>事業概要</b>	<p>1. 骨髄等のあっせんに関する事業 白血病等の治療に有効な骨髄移植や末梢血幹細胞移植を公平に実施するため、法に基づく「骨髄・末梢血幹細胞あっせん提供事業者」である(公財)日本骨髄バンクが骨髄移植等に係る連絡調整を行う(国際的なあっせんを含む)。また、骨髄等提供登録者(ドナー)の登録内容の定期的更新等を行う。</p> <p>2. 骨髄移植等に係る普及啓発に関する事業 一人でも多くの患者に骨髄移植等の機会を提供できるよう、骨髄等提供希望者を確保するための普及啓発事業、骨髄等提供希望者への説明を行うボランティアに対する研修事業、ドナー登録会の開催及び低所得者の患者負担金免除事業を行う。</p> <p>補助率: 定額(1/2・10/10)</p>
-------------	--

## ②造血幹細胞提供推進事業

<b>事業概要</b>	<p>法に基づく「造血幹細胞提供支援機関」である日本赤十字社が以下の事業を行う。</p> <p>1. 骨髄データバンク登録事業 骨髄移植をする際に必要な骨髄等提供希望者の白血球の型(HLA)を検査し、データベースに登録・管理する。</p> <p>2. さい帯血移植対策事業 安全なさい帯血移植実施体制の整備や全国的なさい帯血のHLA情報の共有・共同管理の構築等を図る。</p> <p>3. 造血幹細胞移植患者・ドナー情報登録支援事業 患者及びドナーの疾病の種類、HLA、性別、年齢、治療内容等の情報を収集・分析し、個人が特定されないようプライバシーに十分配慮した上で、医療機関や研究者だけではなく、患者相談を行う団体等にも提供する。</p> <p>4. 造血幹細胞提供支援機関業務 造血幹細胞提供事業者の事業について、必要な連絡調整や、移植に用いる造血幹細胞に関する情報を一元的に管理し、医師等の造血幹細胞を必要とする者に提供する。</p> <p>補助率: 定額</p>
-------------	---

## 【実施状況】

## ①骨髄等移植対策事業、②骨髄データバンク登録事業

<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨髄バンクのドナー登録者数: 470, 270人(平成28年度末現在)</li> <li>・骨髄バンクを介した骨髄等移植実施数:             <ul style="list-style-type: none"> <li>1, 250例(平成28年度実績)</li> <li>20, 547例(平成28年度末までの累計)</li> </ul> </li> </ul>
-------------	--

## ②さい帯血移植対策事業

<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さい帯血公開数: 11, 287個(平成28年度末現在)</li> <li>・さい帯血バンクを介したさい帯血移植実施数:             <ul style="list-style-type: none"> <li>1, 347例(平成28年度実績)</li> <li>14, 513例(平成28年度末までの累計)</li> </ul> </li> </ul>
-------------	--